

成田市教育委員会会議事録

令和4年6月成田市教育委員会会議定例会

期 日 令和4年6月28日 開会：午後3時 閉会：午後4時5分

会 場 成田市役所6階中会議室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗
委 員	岡 本 秀 彦
委 員	日 暮 美智子

出席職員

教育部長	堀 越 正 宏
教育部担当次長	小 川 雅 彦
教育総務課長	伊 藤 真理子
学校施設課長	越 川 房 邦
学務課長	林 英 樹
教育指導課長	廣 田 一 利
生涯学習課長	野 村 貴 子
学校給食センター所長	鈴 木 孝
公民館長	大 隅 光 夫
図書館長	卷 嶋 菊 江
教育総務課長補佐 (書記)	加 藤 剛

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 片岡委員、日暮委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○5月27日 令和4年度第1回成田市副校長・教頭研修会について

研修会のはじめに私の挨拶をとということでしたので、新年度開始から2か月、副校長、教頭先生方には校長と部下職員との間に入って様々な調整役を行っていただいているほか、授業も担当されていること等から忙しい日々を送っているものと思いましたが、今一度留意していただきたいことなどをお話しさせていただきました。

○6月10日 令和4年度第2回成田市副校長・教頭研修会について

第1回目の開催から2週間ほどで2回目の開催でしたので、この日は、最近の私の身の回りに起こった出来事から、教頭先生方に何かヒントになるものがあればと思って話をしました。それは、人に何かを伝える際に大切なこと。私は5月から6月にかけて様々な原稿の執筆依頼を受けました。ちょっと具体的に申し上げますと、あるNPO法人の代表から「成田市の教育」について1,500字程度で原稿を寄せてほしい。公津の杜中学校創立10周年を記念して400字程度で挨拶文を。栄町立布鎌小学校創立150周年に寄せて、A4縦1枚、縦書き、2段組構成で900字から1,000字程度で思い出に残る話を書いてほしい、というようなものでした。それぞれ提出期限内に書き上げて送付しましたが、ここで大切なことは、自分は何を伝えたいのか、そして読み手に何を感じてほしいのか、ということ。伝えたいことと読み手に感じてほしいことを一致させることがとても大切だ。という話をしました。それは、学校で子どもたちや職員に話をするとき、大事なことだと思ったからです。学校で起きている子どもたちをめぐる様々なトラブルは、こうしたことが丁寧に行われずに進んでしまっ、互いに誤解が生じ、問題がこじれてしまうケースが多いのです。教頭会議の席上で短時間の挨拶で人の心が動くとは思っていませんが、少しでも刺激になってほしいと考え、話をしています。

○6月16日 令和4年度第1回成田市学校支援地域本部事業運営委員会について

今年度は新たに遠山小学校と玉造中学校が学校支援地域本部事業を始めることになり、市内全体で16校が参加する事業となりました。この事業では地域コーディネータがなかなか見つからずに事業に取り組めない。あるいは、既に取り組んでいたが地域コーディネータと地域ボランティアとの調整がうまく進まず事業そのものを取りやめざるを得なくなった、という学校があるなど、様々な課題が生じていました。そこに、教育委員会から「次年度から市内全校に学校運営協議会を設置してコミュニティースクールをつくる」という話を進めているわけですから、学校支援地域本部の地域コーディネータの方々は、本当に大丈夫なのか、という心配もされているものと思いました。なので、私から簡単に、学校運営協議会の話をし、もっと簡単に組織づくりができること。現状から大きな変更をしなくてもスムーズにコミュニティースクールに移行していけることなど、話させていただきました。いずれにしても学校支援地域本部事業は貴重な地域学校協働活動の一つです。この事業がうまく進んでいる学校はこの組織を生かして学校運営協議会をつくれればいいし、こうした組織がない学校は既存の学校評議員制度を生かして学校運営協議会をつくれればいいと考えています。目的はどちらも子どもの教育に資すること。子どもをしっかりと育てられる地域環境を作り上げることです。

○6月17日 新任校長校訪問について

5月中に何校か訪問させていただきましたが、今回は、本城小学校、平成小学校、橋賀台小学校の3校に行っていました。本城小学校は昨年度末まで学務課の副参事だった井上功太郎校長、また、平成小学校は東金市教育委員会から来ていただいた永野喜信校長、そして、橋賀台小学校には教育指導課副参事だった佐藤悦子校長が着任されており、それぞれ、ご自身の持ち味を発揮されて、安定した学校経営をされているようで安心したところです。今後、指導室訪問や北総教育事務所学校訪問などの機会がありましたら、教育委員の皆様にも是非ご覧になっていただきたいと思います。

○6月22日 スクールコンサートについて

今年も昨年同様、国際文化会館で全体を3回に分けてスクールコンサートを開催しました。演奏して下さったのは成田空港を拠点として活躍されている成田エアポートシンフォニーオーケストラの皆さんで、昨年度と同様のオーケストラとなりました。この演奏は小学校4年生を対象に行っている催しで、市内の全ての4年生児童にオーケストラの生演奏を聴いてもらって、音楽への関心を深め、その奥深さにも着目して自ら演奏する楽しさも味わえるようになってほ

しいとの願いが込められています。教育委員の皆様にもご案内しておりましたのでご覧になられた方もいらっしゃると思いますがいかがでしたでしょうか。

市議会

○6月 3日～6月21日 令和4年6月定例会について

今年度最初の議会でした。教育委員会からは中台小学校の校舎長寿命化改修工事に関する議案3件を提案しておりましたが、議員による一般質問では、9人の方から質問を受けました。中でも食材の高騰は給食費に影響を与えているのではないかと、という懸念から、複数の議員から給食に関する質問がありました。これについては、現段階でさほど大きな影響は受けていない旨説明したところです。また、教員の働き方改革、児童生徒の不登校支援の問題、ロシアによるウクライナ侵攻問題、子どものマスク着用に関する問題、ブックスタートの問題等々、今回も様々な質問を受け、それぞれに丁寧に回答させていただきました。

○6月14日 教育民生常任委員会

常任委員会では、教育委員会から提案している、「中台小学校の長寿命化改修工事」に関連する3件の請負契約の締結について、他1議案と請願2件が審議され、それぞれ全会一致で可決、採択すべきものと決しました。なお、その後の本会議においてもこれらの議案等は全会一致で可決、採択されました。

その他

○5月25日 令和4年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会並びに特別講演について

2年連続で対面での開催が見送られた千教連の研修会でしたが、今年度は人数制限をした上でJR市原駅に隣接している「サンプラザ市原」で対面による開催となりました。

総会では、昨年度事業及び会計決算の報告、そして、本年度の事業計画及び予算案について、また、本年度役員を選出を行いました。この結果、輪番により本年度から会長は流山市教育委員会の田中弘美教育長が、副会長に市川市教育委員会の田中庸恵教育長と九十九里町教育委員会の藤代賢司教育長など、5名を選出しました。市原市が千教連の事務局を務めるのはこの日が最後で、次年度からは流山市が事務局になります。なお、今回は総会の後に文部科学省から初等中等教育局財務課校務改善専門官の菅谷匠氏が「学校における働き方改革」についてご講演してくださいました。菅谷氏は干潟町立干潟中学校から長生高校に進まれるなど、県内北総地区

のご出身とのことでした。講演内容については特にご報告いたしません、これまでのアンケート調査結果など、実際に現れた数字をもとにお話があり、説得力のあるものでした。同時に、校務改善専門官なるものを配置し、教員の働き方改革が進められているということに文科省の本気ぶりが伺えました。

○5月28日 第9回成田伝統芸能まつり春の陣について

伝統芸能まつりは秋に実施していますが、今回はそのお祭りの「春の陣」ということで、歌舞伎を中心にしたお祭りが2日間にわたって開催されました。

私は初日の開会セレモニーとその直後に行われた石川県小松市の「曳山子供歌舞伎」による「絵本太功記十段目尼ヶ崎閑居の場」を見せていただきました。出演者は小学校5年生と6年生の女子児童6名。250年の歴史を持つ伝統の「子供歌舞伎」の完成度は非常に高く、見ている方々に大きな感動を与えました。もちろん私もその中の一人です。本市にも伊能歌舞伎という地芝居の伝統が受け継がれていますが、過疎化とともに役者の引継ぎが難しくなるなど困難に直面しています。石川県小松市の「曳山子供歌舞伎」は、こうした中にあっても脈々と引き継がれています。それはまさに「子供歌舞伎」だからこそ実現できていることなのかもしれません。聞くところによると、公演前に集中的に毎日特訓するということでした。子ども達だからできること、とも言えます。いずれにしても伝統芸能とは何か、考えさせられる1日となりました。

○5月30日、6月27日 北総教育事務所指導室訪問について

5月30日は豊住小学校、6月27日は遠山中学校の指導室訪問でした。それぞれ、ご一緒に参観された委員さんもいらっしゃいますが、ここでは私の感想を述べさせていただきます。豊住小学校は昨年度から小規模特認校として学区を超えた地域からも通学可能な学校としておりますが、昨年度、今年度それぞれ6名の児童が入学することになりました。このため、全校児童数41名中、12名は特認校制度を活用したことになります。特に今年度の新入生は10名中、6名が特認校制度による入学とのことでした。

授業では少人数の特色を生かしたきめ細かい指導がなされていましたし、体育では複数学年が一緒に授業を行うなどの方法で、ある程度の集団的な活動ができるようになっていました。

遠山中学校では、16学級の授業展開を見せていただきました。この日、6月27日は、前日、前々日に続き非常に高い気温で熱中症アラートが発令される事態となり、遠山中で実施予定だった体育が、急遽、教室で座学をするよう、当日の朝に教育事務所から指示があったようで

す。私は、授業をどうするかは校長の権限で行うべきものと捉えておりましたので、一言苦言を呈しておきました。しかし、想像以上の高温で、結果的に運動は中止してよかったかもしれせん。それにしてもこの日、気象庁から梅雨明けが発表され、驚きました。6月中の梅雨明けは2018年以来で、関東地方では観測史上最も早い梅雨明けのようです。7月、8月はどうなるのか、不安になります。

○6月 4日 令和4年度一般社団法人成田市スポーツ協会総会・表彰式について

この総会も3年ぶりに対面での開催となりました。総会ですので、行事、予算の他、役員交代等あり、審議の結果、全議案が承認されました。引き続き村嶋会長の元、スポーツ協会の運営がなされます。なお、総会の後、昨年度、各種大会で活躍された選手等の表彰式があり、それぞれに表彰楯が送られました。

○6月 6日 令和4年度一般財団法人印旛教育会館第1回評議員会について

今回の議題は、令和3年度の事業報告と決算の承認に関する件、令和3年度公益目的支出計画実施報告書の承認に関する件、理事の選任に関する件、特別会計から一般会計への繰り入れの件、4議案について審議し、全議案とも原案通り、全会一致もしくは賛成多数で可決されました。

○6月10日 叙位伝達について

一昨年に高齢者叙勲を伝達させていただいた、秋山幹雄先生がお亡くなりになり、叙位の伝達をしてまいりました。奥様と娘さんが対応してくださいました。秋山先生は転倒した際に後頭部を打ち、頸椎を損傷したことがお亡くなりになった要因だったとのことでしたが、この直前、奥様に向かって、「私はおかげさまでいい人生だった」と、おっしゃっておられたとのことです。突然の死で奥様をはじめご家族は大変な状況であったようですが、奥様はこの言葉に救われたともおっしゃっておられました。ご冥福をお祈りしたいと思います。

○6月18日 令和4年度成田市PTAバレーボール大会について

3年ぶりの開催となりました。参加チームは17チームで、このチームの中には同一中学校区で合同チームを作って参加されていたチームもいくつかあったようです。私はコロナの影響で練習量を十分確保できなかったのではないかと心配していましたが、参加された方に話を伺いましたら、クラブチームで練習を続けていた方も多く、チームとしての練習時間は短くて

も選手の皆さんご自身は決して運動不足ではないとのことでした。また、試合も気迫あふれるプレーが続出し、白熱した試合が見られました。

後日、大会結果を伺いましたら、優勝は公津の杜小学校、準優勝は豊住小学校だったとのことでした。素晴らしい大会でしたが唯一残念だったのは、コロナ以前はお母さん方の応援に子どもたちも駆けつけていたのですが、今回はそれが見送られたことです。子どもたちに頑張っているお母さんの姿を見せるのは大事なことだと思いますので。

○6月23日 公益財団法人印旛郡市文化財センター第11回定時評議員会について

前回の理事会で審議し、承認された内容を今度は評議員会で審議していただきました。私は副理事長という立場で評議員会に出席しているため、特に発言を求めるようなことは致しませんでした。この日は、4名中3名の評議員が出席し、全議案とも全会一致で可決されました。

○6月23日 2022成田POPラン大会第1回実行委員会について

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、大会は実施したものの、参加者を市民だけに絞って限定的な大会となりましたが、今年度はコロナ以前と同様の規模で大会を開催することを決めました。ただ、コロナ以前は当日に参加者の受付をしていましたが、今回は感染拡大防止の意味もあって、昨年度と同様に、参加者にあらかじめゼッケンやICチップを送っておくことで、当日の受付を廃止しました。これは、感染拡大の防止効果だけに留まらず、大会運営側にとっても選手受付のために人員配置をしなくても済むなど、効率的な運営につながります。また、これまで大会プログラムも受付した際に参加者にお渡ししていましたが、今回はこれもなくし、全てインターネット上でダウンロードする形に変えました。運営する側にとっては経費の削減にもつながり、参加者にとっても負担が減るものと思います。少し気になるのは、こうしたネット上でのやり取りが苦手な方々への対応です。こういう方々には電話での受付などで丁寧に対応するとのことですが、どんな人にとってもハードルが高くない様に配慮してほしいと思いました。

なお、大会は、11月13日に中台運動公園陸上競技場をスタート、ゴールに設定して開催されます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：6月22日のスクールコンサートに午前中、日暮委員と参加させていただきました。

子どもたちが元気に返事をしたり、盛り上がる場所は盛り上がり、静かに聴くところは聴けてメリハリがあり、先生方がきちんと指導されていると思いました。始まる前に、葉山前学務課長にお会いしまして、初めての小学校で子どもと一緒に走り回っていることを伺いました。結構大変だと言いながらもまんざらでもなさそうで、1年生など丁寧に接することが必要で優しくなりましたとおっしゃっていました。前回の会議でも話がありました、中学校の先生も小学校に関わることで優しく関わるという経験が大事だと思います。できれば校長になってからではなく、早い段階からそういう経験を取り入れていただけたらと考えました。それから、ある高校の卒業アルバムの関係で6月にずっと写真を撮っていたのですけれども、そこにアルバム委員で女性の新任の先生がいました。体育の先生で子どもたちに向かって姓を呼び捨てて呼ぶのですが、感じは決して悪いわけではなく、子どもたちとは良い関係なのですけれども、このまま誰も言わなければ呼び捨てのまま行ってしまうのかなと思いました。私としては、教員生活を始めた最初に子どもたちを呼ぶ際には「さん」付けして、それが当たり前で行ってくれば良いと思いながら、私が口を出すところでもないかと思い、何も言わなかったのですが、上司なり周りなりが「さん」付けして行こうと若手教員の指導をして行っていたら良いのかなと考えました。

片岡委員：スクールコンサートは、今年も4年生の子どもたちに素敵な生の演奏を聴いてもらえて、豊かな時間だなと思いました。司会の教育指導課の佐藤指導主事が、子どもたちの返事をとても上手に引き出して、子どもたちもそれで聴く体制ができて、とても良かったと思います。ウクライナの状況などを考えると、日本の子どもたち、成田市の子どもたちは恵まれていて幸せということを改めて感じました。演奏された中に昨年も演奏していただいたと思いますが、カラー・ユア・ライフという曲があり、とても良い曲でオーケストラの方たちの中では恒例の曲らしいのですが、子どもたちもノリノリになって楽しそうに聴いていたのが印象的でした。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第1号から議案第4号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項の規定により非公開により審議する。

《これより非公開》

議案第1号 成田市教育事務評価委員の委嘱について

伊藤教育総務課長：

成田市教育事務評価委員の委嘱であります。この制度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を公表しなければならない」とされております。そして点検・評価にあたっては、教育に関する学識経験者の知見を活用することとされていることから、「成田市教育事務評価委員設置要領」を定め、毎年点検・評価を実施しているところであります。

本案は、内田和子委員が任期途中の本年3月31日をもって解嘱となったこと、また大竹誠司委員が本年6月30日をもって任期満了となることから、内田委員の後任として多田初枝氏、大竹委員の後任として竹尾裕之氏を新規に委員として委嘱しようとするものです。

経歴につきましては、記載のとおりでございますが、いずれの方も学校教育や社会教育など様々な分野でご活躍されており、教育に関し相応の知見を有していることから、適任であると考えております。

なお、多田初枝氏の任期につきましては、前任である内田委員の残任期間となります。

ご承認いただいた上は、お二方ともに今年度の点検評価をお願いすることとなります。

《議案第1号に対する質疑》

特になし

関川教育長：特にないようですので、議案第1号「成田市教育事務評価委員の委嘱について」を

採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第2号 令和5年度使用教科用図書の選定について

林学務課長：

成田市教育委員会として、令和5年度に使用する学校教育法附則第9条の規定による一般図書の選定を行うものです。

7月5日に開催される第2回教科用図書印旛採択地区協議会に、本市教育委員会を代表して関川教育長と佐藤教育長職務代理者にご出席いただくにあたりまして、本市教育委員会としての選定をどのようにするか、本日、調査・協議いただきました。

特別支援学級で使用する附則9条図書ですが、今年度新たに3冊が選定の候補に加わりました。今回新たに加わった3冊につきましては、2冊を適、1冊を要検討とすることをご意見を伺いました。

《議案第2号に対する質疑》

特になし

関川教育長：特にないようですので、議案第2号「令和5年度使用教科用図書の選定について」

を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第3号 成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について

廣田教育指導課長：

本議案は、令和3年度末に退任となった1名の委員に代わり、成田市心身障害児教育支援委員会条例第3条第2項の規定により、新たに1名の委員を委嘱しようとするものです。

なお、前任の委員は、成田市立吾妻小学校及び玉造中学校 学校医の國保能彦氏です。

新たに委嘱する1名については、選出区分第1号にて規定されている「小学校、中学校及び義務教育学校の学校医」として、現在、成田市立成田小学校学校医の白石優子理事長にお願いしたいと考えています。

白石医師は、東邦大学医学部卒業後、2003年4月、東邦大学医療センター大橋病院小児科へ赴任され、都立八王子医療センター、独立行政法人国立病院機構下志津病院の小児科にてご経験を重ねられた後、2016年4月より、成田市玉造の小田内科医院にて地域医療に携わられております。加えて、2016年5月より、成田市立成田小学校の学校医を務めていただいております。

小児科、アレルギー科を専門とされ、これまでのご経験を基に、小田内科医院では小児科の一般診療に加え、食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎等の小児アレルギー医療の分野における診療に力を注がれております。2021年4月には、小田内科医院の理事長に就任されました。小児科医療に関する豊富な経験と知識を生かし、児童生徒の心身の成長や発達について、専門的な知見をいただけるものと期待しております。

なお、白石医師の任期につきましては、成田市心身障害児教育支援委員会条例第4条の規定により、前任の國保委員の残任期間である令和4年9月30日までとなりますと共に、白石医師は、通称である小田姓を使用されており、会議などの場では、小田先生とお呼びしますが、委嘱状等の正式な文書では、白石姓を使用いたします。

《議案第3号に対する質疑》

片岡委員：今、特別支援学級のお子さんも増えており、そういったお子さんも相談しやすい組織になっているのでしょうか。発達に問題があつて悩んでいる親御さんが相当数いらっしゃるとお見受けするのですが、そういう親御さんがこの委員会を知っており、相談窓口があるという認識ができているのでしょうか。学校の中でつないでくださる先生がいるのでしょうか。

廣田教育指導課長：この委員会は、7、10、11、1月と年間で4回の開催をしております、その都度、教育指導課の指導主事や相談員等が、未就学児童や中学校への進学段階のお子さんにつきまして、保護者や幼稚園、学校からの相談を受けまして、審議をしていく流れとなっております。昨年度は年間で168件の審議をいたしまして、相談には対応できているという認識であります。

佐藤委員：本日の審議としては、新任者の委嘱についてなのですが、条例では委員は9人以内となっていて、実際には8人の体制であります。このうち識見を有する者は2名以内となっているため、入れる余地はないのかもしれませんが、特別支援学校のうち富里特別支援学校の校長先生が入っておらず、富里特別支援学校に三里塚コースがあり成田市からも行っていることもあると考えると、条例の見直しなども考えて、3つの特別支援学校の先生が入れるようにした方が良いのではと考えます。

関川教育長：栄特別支援学校は比較的新しい学校のため、この条例が制定された際には想定されていないものと考えられます。また、富里特別支援学校には、不二学園の子どもたちのみが行っているという状況です。ご意見を参考に、現行の構成でよいか事務局で検討してまいりたいと思います。

関川教育長：その他、何かございますか。

特にないようですので、議案第3号「成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

議案第4号 成田市社会教育委員の委嘱について

野村生涯学習課長：

今回は任期満了による委員10名全員の改選となり、全員再任となります。

例年、年2回の会議、または1回ずつ会議と視察を行っておりましたが、現在の委員の皆様が委嘱されて以降は新型コロナウイルス感染症の影響により会議を開催することが難しく、対面での会議が1回、書面による会議が1回のみ活動状況となりました。

今回の任期満了に伴い、現委員の皆様への意向の確認や団体への推薦依頼などを行いました。任期中の活動が例年どおり行えなかったことなどもあり、全員が再任となりました。

内訳としましては、「成田市社会教育委員条例第2条第1号学校教育の関係者」に基づく委員として、小林元委員、鈴木隆英委員、大徳正博委員、「同条第2号社会教育の関係者」に基づく委員として、佐々木英夫委員、多田初枝委員、日暮健委員、「同条第3号家庭教育の向上に資する活動を行う者」に基づく委員として、湯浅美智子委員、「同条第4号識見を有する者」に基づく委員として、磯前勉委員、齊藤好徳委員、多田美香委員、以上、10名の委員の委嘱を提案いたします。

再任となりますことから、略歴などのご紹介は割愛させていただきます。

本市の社会教育、生涯学習に携わっていただいております、引き続き、それぞれの経験を活かしたご意見をいただけるものと考えております。

任期は、令和4年7月1日から令和6年6月30日までの2年間となります。

《議案第4号に対する質疑》

片岡委員：先ほどの教育事務評価委員にも入っている方が候補に挙げられていますが、複数の委員を兼任することは問題ないのでしょうか。

野村生涯学習課長：委員の兼任について条例上は問題ございませんので、社会教育委員としてふさわしい方ということで委嘱させていただければと考えております。

片岡委員：社会教育委員は、具体的に教育現場にどう関わっていらっしゃるのでしょうか。

野村生涯学習課長：実際に教育現場に行ってくださいではなく、教育委員会事務局から提

示した議題について、委員の皆様からご意見をいただくようになります。

片岡委員：議題は、教育現場に関するものでしょうか。

野村生涯学習課長：社会教育に関することになります。

関川教育長：学校教育だけではなく、広く社会教育全般にわたって、様々な課題についてご意見をいただく機関と捉えていただければと思います。

片岡委員：成田市には、このような委員会や委員が数多くあり、この社会教育委員は昭和29年からやっていたりしますが、必要があって行われているのでしょうか。昔からやっているからそのまま必要という考えになってはいないでしょうか。

野村生涯学習課長：生涯学習、社会教育におきましては、やはり時代とともに色々な課題が出てまいります。生涯大学のことですとか、社会人教育のことですとか、そういった新たな課題に対応し、相談させていただく機関として、必要と考えております。

関川教育長：その他、何かございますか。

特にないようですので、議案第4号「成田市社会教育委員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

《非公開を解く》

(2) 報告事項

報告第1号 令和4年度就学援助に係る当初認定件数について

林学務課長：

お配りしております資料でございますとおり、本年度は6月15日現在、小学生458名、中学生290名の合計748名を準要保護児童生徒として認定しております。

本市の準要保護認定児童生徒数は、昨年度の同時期の認定数742名と単純に比較いたしますとほぼ横ばいに推移しておりますが、離職や収入減少などといった厳しい状況に置かれた児童生徒を持つご家庭から年度途中での申請が提出されることも予想されますので、引き続き適切に対応してまいりたいと考えております。

《報告第1号に対する質疑》

日暮委員：表を見させていただいて、学校や地域によって認定率が違うんだなと感じたところ
です。就学援助手続きにあたって、民生委員さんなどが関わりながらやっていただい
て、昔に比べてだいぶ事務手続きを簡素化していただいているところですが、学校職員
の負担などどのように軽減していただいているのでしょうか。

林学務課長：詳細は把握しておりませんが、負担軽減に努めているところです。

日暮委員：例えば部活動で使ったものに対する部活動援助なども就学援助で出ていたと思いま
すけれども、そういったものも全て保護者と教育委員会事務局とのやり取りになるの
でしょうか。同じくらいの件数を扱うにしても、吾妻小学校と玉造小学校では職員の数
が違う中で、学校職員が事務手続きに関わっているならば、玉造小学校の先生の方が少
ないので、校務分掌も一人でたくさん抱えている中で大変な部分もあるのかなと感じ
た次第です。ですので、どのように学校職員が事務手続きに関わっているのか、次回で
結構ですので教えていただけたらと思います。

関川教育長：今回の報告は認定件数になりますので、今、ご質問いただいた件につきましては、

次回にお答えできる部分はお答えさせていただければと思います。ただ、認定そのものに対する学校の事務処理というのは大分負担が少なくなっておりますが、事業費の算出等に関しては、事務処理が結構あるということは事実であります。

片岡委員：表を見ていると却下がありますけれども、それぞれの理由はどのようになっているのでしょうか。

林学務課長：基準よりも収入があることにより制度上対象とならず却下となっております。

岡本委員：地域によって認定率が違っており、年度による差がないということは、歴史的背景などあると思いますけれども、経済的な地域差があるということで、そういった差はない方が良くと思います。地域差の固定化が危惧されるところです。

片岡委員：認定率が高めの地域では、生活に困窮され学習にも影響が出ている世帯も多いかもしれませんので、そういった場合にサポート教員を多く配置するなど、先生の負担に対するフォローはどのようにされているのでしょうか。

林学務課長：先ほども岡本委員がおっしゃられたように、地域差はあります。年によって変わるものではなく、続いているのが現状でございます。教員の負担軽減といたしましては、サポート教員または支援員等を配置して十分なサポートをできるよう体制を整えております。

報告第2号 令和5年以降の成人式の名称について

野村生涯学習課長：

今年度より成年年齢が18歳に引き下げられましたが、本市では「成人式」の対象年齢について、今後も20歳として開催することを令和3年4月の教育委員会議にて報告しております。

今年度開催となる令和5年以降の成人式の名称について、「ちば電子申請サービス」にて、市内、市外、年齢を問わずアンケートを実施したところ、「成人式」がよほどの回答が約90%ありました。また、北総地区では、「成人式」の名称で実施する市町も複数ございます。

以上のことをふまえ、成田市では、令和5年以降もこれまでと変わらず、「成人式」の名称で実施することといたしました。

《報告第2号に対する質疑》

岡本委員：全国的には20歳で成人式というのが多いのでしょうか。18歳で行うところとはどれくらい違うのでしょうか。

野村生涯学習課長：令和3年に行われた法務省など関係省庁による調査において、18歳を対象として行う成人式は2市町だけという結果になっております。やはり受験年齢などいろいろなことがございますので少なくなっております。

6. 教育長閉会宣言